

九月定例議会報告

九月議会が十一日から開会され、八名が一般質問

平成二九年年度の一般会計及び国民健康保険介護保険後期高齢者医療等の特別会計の決算認定、ならびに平成三十年年度の一般会計補正予算他、国保介護後期高齢者特別会計補正予算等の議案についても医療費支給に関する条例、重度心身障害者医療費支給に関する条例、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例のそれぞれの一部を改正する条例やその他固定資産評価員の選任、教育委員の任命、人権擁護委員候補者の推薦など17議案が審議されました。田村議員は決算では賛成のものもありましたが、一括採決なので、広域上水道の莫大な負担金や個人情報漏えいの危険が高いマイナンバー制度等含まれているので反対しました。

田村議員の一般質問

一、広報は行政サービスを住民に伝えるものとして漏れなく配付することが役場の責任と思うが実態はどうか
二、地球温暖化による気象変動による災害が連続しているが西日本豪雨災害ではダムが放流など下流で予想外の被害が起きている。荒川の上流には四つのダムがあるが町としての万一の時の対策は。

当局答弁

一、広報「ながとろ」は各区長を

通じて配布をお願いしている。その他、公共施設に配布してある。漏れがあるか現状を調査します
二、四つのダムは連携をとって氾濫が起きないようにしているが、予想外の大規模災害について、ハザードマップに書き込むべきかどうか関係機関

田村議員の感想

広報については漏れがあるか調査すると前向き。想定外の大規模災害に備えて、ぜひハザードマップに書き込んでほしい。

愛媛・西予市野村町 650棟浸水、5人死亡

洪水ハザードマップなし

西日本豪雨で肱川（ひじかわ）が氾濫し、5人が死亡、650棟が浸水した愛媛県の西予（せいよ）市の野村町。河川を管理する県は、野村ダム下流の野村地域で、大規模な浸水被害を想定せず、同市も「ハザードマップ（被害予想地図）」を作製していなかったことが判明。

「ダムが守ってくれる」。背景にダムへの過信、ダム「安全神話」を指摘する声も上がっています。（しんぶん赤旗より）

東日本大震災から7年半。二年半前の熊本地震、西日本豪雨災害、最近の北海道地震、想定外の災害が相次いで発生しています。

寛保二年（1742年）、荒川の洪水がここまで来たという印が長瀬第二小の裏にあります。国道より2メートル位上です。自治体は万一の洪水にも備えるべきではないでしょうか。（田村町議談）

請願一件、意見書一件が提出審議

受動喫煙防止対策に関する請願

経済観光常任委員会で審議されることになりました。

ゴルフ場利用税の堅持を求める意見書

出席議員全員の賛成で採択されました。

生活相談は下記へ

田村つとむ 26-7528 長瀬町本野上 178-1

日本共産党発行



日刊 3497円
日曜版 823円

ぜひ、ご一読を

○暮らし、福祉問題、国会論戦、地方議会の決議、弁護士、学者、市民団体、青年の運動を一番詳しく報道する「しんぶん赤旗」
○共産党は政治腐敗の温床となる政党助成金を受け取っていません。募金のご協力を!



<http://www.jcp.or.jp/>

魅力は紙面が丸ごすまホヤタブレット、パソコンで読めること。いま、他党派、メディアからも注目されています。問い合わせ、申し込みはこちら

しんぶん赤旗の電子版

7月2日スタート!